

[成果情報名] 水稻「あきさかり」の奨励品種採用

[要約] 水稻「あきさかり」は、「コシヒカリ」と比較して成熟期はやや遅く、短稈で耐倒伏性に優れ、収量は同等かやや多い。食味は同程度であり、中食・外食用米として、適性が高い。

[キーワード] イネ、広島県、奨励品種、あきさかり

[担当] 栽培技術研究部

[代表連絡先] 電話 082-429-3066

[研究所名] 広島県立総合技術研究所農業技術センター

[分類] 普及成果情報

[背景・ねらい]

全国的に中食・外食用米の需要が増加しており、広島県においても、この分野への安定供給が喫緊の課題となっている。中食・外食産業では、米は安価で安定的に供給されることが重要視されるが、県内で栽培面積が最大で食味評価の高い「コシヒカリ」は、倒伏しやすいために収量が不安定で価格も高い。そこで、耐倒伏性に優れ、多収で良食味の品種を選定し、奨励品種に採用する。

[成果の内容・特徴]

「あきさかり」は、「コシヒカリ」と比較して次の特徴を有する。

1. 成熟期は3～4日遅い「早生の晩」である（表1、表2）。
2. 稈長は20cm程度短く耐倒伏性に優れる（表1、表2）。
3. 精玄米重は、東広島市八本松町の3年平均では98%と同等であるが、福山市神辺町での現地適応性試験では2年ともに重い（表2）。また、広島県穀物改良協会の展示圃では対比119%（2010～13年の展示圃：標高179～450mの14か所の平均）と高い。
4. 玄米品質は同程度かやや優れる（表1、表2）。
5. 穂発芽性は「中」程度である（表1）。
6. 蛋白含有率は同程度。食味も同程度で、良食味である（表1）。

[普及のための参考情報]

1. 高温年であった2013年の福山（標高15m）での試験栽培では等級が3等であったことから、低標高地帯では品質が低下する可能性があり、栽培適地は県中北部地帯（標高150～500m）である。
2. 育成地情報では葉いもちに対して「やや弱」のため、適期防除に努める。また、「コシヒカリ」に比べ穂発芽しやすいので、適期刈取りに努める。
3. 全農ひろしま品質管理室の炊飯試験でも食味評価は良好である（データ略）。
4. 農業法人および大型農家を中心に「コシヒカリ」、「どんとこい」および「キヌヒカリ」に替えて普及を図る。
5. 普及予定面積は、2015年に1,500haとし、その後段階的に拡大を図る。
6. 主に、中食・外食産業向けとして販路拡大を図る。

[具体的データ]

表1 奨励品種決定調査における成績（東広島市八本松町原：標高 224m）

品種名	試験年度	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	倒伏 ¹⁾	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	全重 (kg/a)	精玄米重 ²⁾		千粒重 (g)	等級 ³⁾	整粒率 ⁴⁾ (%)
									(kg/a)	対比(%)			
あきさかり	2008	7.31	9.10	70	0.0	16.4	359	130.5	49.4	101	24.2	1中	84.3
	2013	8.02	9.15	78	2.0	16.5	481	156.3	57.9	90	22.1	2下	73.2
	2014	8.05	9.20	76	0.0	17.4	437	156.0	64.2	104	22.9	1下	85.1
	平均	8.01	9.15	74	0.7	16.8	426	147.6	57.2	98	23.1	1下	80.9
コシヒカリ	2008	7.29	9.09	90	2.5	17.8	355	141.0	49.0	100	22.8	1下	77.0
	2013	7.29	9.06	95	4.0	17.8	391	168.6	64.1	100	22.7	3中	60.1
	2014	7.31	9.17	93	3.5	18.4	407	159.9	61.9	100	22.7	2下	78.7
	平均	7.29	9.11	93	3.3	18.0	384	156.5	58.3	100	22.7	2下	71.9

品種名	試験年度	穂発芽性 ⁵⁾	蛋白含有率 ⁶⁾ (%)	食味官能評価 ⁷⁾					
				外観	香り	味	粘り	硬さ	総合
あきさかり	2008	7.0	5.9	0.44	0.06	-0.28	0.00	-0.06	-0.06
	2013	3.5	6.5	-0.20	-0.10	0.00	0.50	0.50	0.20
	平均	5.3	6.2	0.12	-0.02	-0.14	0.25	0.22	0.07
コシヒカリ	2008	7.0	6.5						
	2013	7.0	6.0						
	平均	7.0	6.3						

- 1) 倒伏は、0：無 ～ 5：甚 の6段階評価、成熟期に調査。
- 2) グレーダーの篩目は1.8mmを使用。精玄米重の対比は、標準品種を100とした場合の比。
2013年は籾数過多で登熟歩合低のため減収。
- 3) 等級は広島県JA農産物検査協会調べ。各等級をさらに上・中・下に区分した10段階評価。
- 4) 整粒率（粒重比）はサタケ社製穀粒判別器(RGQI10A)により測定。
- 5) 穂発芽性は、2：極易～8：極難 の7段階評価。
- 6) 蛋白含有率は90%精米をサタケ社製近赤外分析計（TB15A）で測定。
- 7) 食味官能試験での評価：「コシヒカリ」を0として、粘りおよび硬さは-3～+3で評価。
それ以外の項目は-5～+5で評価。パネル：2008年18人、2013年10人。

表2 奨励品種決定調査現地適応性試験における成績
(2011年：三次市小田幸町：標高 170m、2014年：福山市神辺町：標高 15m)

試験年度	品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	倒伏 ¹⁾	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	全重 (kg/a)	精玄米重 ²⁾		千粒重 (g)	等級 ³⁾	整粒率 ⁴⁾ (%)
									(kg/a)	対比(%)			
2011	あきさかり	8.03	9.13	80	1.0	17.2	306	160.8	66.0	115	22.5	1中	76.9
	コシヒカリ	7.30	9.10	98	4.0	19.5	346	158.8	57.3	100	21.8	1中	69.8
2014	あきさかり	8.16	9.24	79	0.0	17.7	353	151.2	62.4	114	22.7	1下	87.6
	コシヒカリ	8.14	9.21	100	3.5	18.4	400	157.7	54.6	100	22.0	2上	83.5

- 1) 倒伏は、0：無 ～ 5：甚 の6段階評価、成熟期に調査。
- 2) グレーダーの篩目は1.8mmを使用。精玄米重の対比は、標準品種を100とした場合の比。
- 3) 等級は広島県JA農産物検査協会調べ。各等級をさらに上・中・下に区分した10段階評価。
- 4) 整粒率（粒重比）はサタケ社製穀粒判別器(RGQI10A)により測定。

(勝場善之助)

[その他]

研究課題名：主要農作物等の優良品種選定・種子生産
 予算区分：県単
 研究期間：2008～2014年度
 研究担当者：勝場善之助、清水健太郎